

(添付ファイル 第8号様式)

平成25年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用対便益分析結果・コスト削減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	
						採択年	総事業費	進捗率				事業進捗内容
							工事費	進捗率				
目標年	用地費	進捗率										
広域河川改修事業	7	二級河川員弁川	桑名市・いなべ市・東員町		<p>【全体事業概要】 全体事業費 8,501百万円 計画延長 8,500m (員弁川) ・築堤工 72,000m³ ・掘削工 659,100m³ ・護岸工 5,200m ・橋梁 1橋 ・頭首工 2基 ・用地補償費 1式</p>	H21	8,501	7.2%	<p>【事業進捗内容】 事業費 616百万円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・築堤工 30,260m³ ・掘削工 27,400m³ ・護岸工 554m ・用地補償 1式 <p>【以降事業内容】 事業費 7,885百万円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・築堤工 39,940m³ ・掘削工 631,700m³ ・護岸工 4,646m ・橋梁 1橋 ・頭首工 2基 ・用地補償 1式 	<p>(周辺環境の変化) 新名神の開通などにより、道路網が集中する地域であり、依然として治水対策の必要性が高い状況です。</p> <p>近年では平成12年に約250戸の家屋が浸水しています。</p>	<p>B/C = 27.31 資産の増加による便益の増加と全評価期間の費用・便益について社会的割引率を用いて現在価値化した結果、便益、費用とも増となったが、資産増に伴う便益の増加が大きく、B/Cが増加しました。</p> <p>河床掘削等による発生土を近隣の他事業に流用する等してコスト削減に努めます。</p> <p>『ダム案』はダムサイトとしての適地は上流域の山地となりますが、流域の大部分が平地で、ダムの適地がありません。また、『遊水地・調整池案』については新たに広大な用地を取得することや、補償することは困難です。</p>	<p>道路事業との連携を図りながら桑部橋の架け替えを進め、桑部橋完成後は、近鉄橋梁下流の町屋頭首工改築に着手する予定です。</p>
						}	8,203	6.7%				
						H50	298	22.8%				

注:再評価理由

- 事業採択後5年間を経過した時点で未着工の事業
- 事業採択後一定期間を経過した時点で継続中の事業
- 再評価実施後一定期間が経過している事業
- 社会経済情勢の急激な変化等により再評価を実施する必要が生じた事業

(添付ファイル 第8号様式)

平成25年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用対便益分析結果・コスト削減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	
						採択年	総事業費	進捗率				事業進捗内容
							工事費	進捗率				
目標年	用地費	進捗率										
高潮対策事業	8	二級河川堀切川	鈴鹿市		<p>【全体事業概要】 全体事業費 9,450百万円 計画延長 L=1,500m(堀切川) L=700m(釜屋川) ・水門・排水機場 2ヶ所 ・築堤工 L=520m ・掘削工 V=7,400m³ ・護岸工 L=4,060m ・橋梁 7橋 ・用地補償1式</p>	S63	9,450	82.0%	<p>【実施事業内容】 ・水門・排水機場 2ヶ所 (釜屋川排水機場(暫定)、堀切川水門、堀切川排水機場(暫定)) ・護岸工 L = 435m</p> <p>【以降事業内容】 ・築堤工 L = 520m ・掘削工 V = 7,400m³ ・護岸工 L = 3,625m ・橋梁 7橋 ・用地補償 1式</p>	堀切川及び釜屋川の両岸には市街地が広がっており、依然として、高潮対策の必要性が高い状況です。なお、資産に顕著な増減は見られません。	B/C = 12.85 全評価期間の費用・便益について社会的割引率を用いて、現在価値化した結果、便益・費用とも増となったが、投資済みの費用が多いことから、総費用の増大が著しいため、B/Cが減少しました。 材料・工法等における新技術の積極的な採用、建設発生土の工事間流用の促進等によりコスト削減に努めていきます。 代替案は現実的側面からありません。	厳しい財政状況であるものの、随時、改修をすすめ治水安全度の向上を図ります。
						}	8,045	81.0%				
						H30	1,405	89.0%				

注:再評価理由

- 事業採択後5年間を経過した時点で未着工の事業
- 事業採択後一定期間を経過した時点で継続中の事業
- 再評価実施後一定期間が経過している事業
- 社会経済情勢の急激な変化等により再評価を実施する必要が生じた事業

(添付ファイル 第8号様式)

平成25年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用対便益分析結果・コスト縮減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	
						採択年	総事業費	進捗率				事業進捗内容
							工事費	進捗率				
目標年	用地費	進捗率										
総合流域防災事業	9	一級河川 椋川	鈴鹿市・亀山市		<p>【全体事業概要】 全体事業費 2,405百万円 計画延長 L=4,310m ・築堤工 L=8,600m ・掘削工 V=73,200m³ ・護岸工 L=4,600m ・樋門・樋管 1基 ・橋梁 6橋 ・堰 3基 ・用地補償 1式</p>	H11	2,405	71.0%	<p>【実施事業内容】 ・築堤工 L = 2,610m ・掘削工 V = 5,020m³ ・護岸工 L = 951m ・橋梁工 2橋 ・堰 2基 ・用地補償 1式</p> <p>【以降事業内容】 ・築堤工 L = 5,990m ・掘削工 V = 68,180m³ ・護岸工 L = 3,649m ・樋門・樋管 1式 ・橋梁工 4橋 ・堰 1基 ・用地補償 1式</p>	<p>(周辺環境の変化) 椋川流域では、前回再評価時以降に大きな変化はありません。依然として、治水対策の必要性が高い状況です。</p> <p>近年では平成24年に11戸の家屋が浸水しています。洪水被害を受け、地元住民の治水事業への理解と関心が高く、現在まで順調に事業が進捗しています。</p>	<p>B/C = 1.33 全評価期間の費用・便益について社会的割引率を用いて現在価値化した結果、資産の減少が著しいことに加え費用が増加したことから、B/Cが減少しました。</p> <p>掘削等による発生土を有効利用し、また、護岸の材料、工法の新技術の活用、護岸の法勾配の変更や片岸拡幅への変更等により、コスト縮減ができるように検討します。</p> <p>代替案について、ダム案は流域に適地がなく、遊水地・調整池案は、新たに用地を取得することや補償することが困難であるため、現行の河道改修が妥当と考えます。</p>	<p>引き続き、築堤工、護岸工を進めるとともに、国道306号の新椋川橋の架け替えに着手し、平成24年9月に洪水被害が発生した国道306号の上流の改修を進めていく予定です。</p>
						}	1,555	63.0%				
						H35	850	84.0%				
					<p>【事業目的】 椋川の浸水被害防止を目的に、河道拡幅、築堤、及び横断構造物の改築により流下能力を増大させ、治水安全度の向上を図ります。</p>							

注:再評価理由

- 事業採択後5年間を経過した時点で未着工の事業
- 事業採択後一定期間を経過した時点で継続中の事業
- 再評価実施後一定期間が経過している事業
- 社会経済情勢の急激な変化等により再評価を実施する必要が生じた事業

(添付ファイル 第8号様式)

平成25年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用対便益分析結果・コスト削減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	
						採択年	総事業費	進捗率				事業進捗内容
							工事費	進捗率				
目標年	用地費	進捗率										
広域河川改修事業	10	二級河川 志登茂川	津市		<p>【全体事業概要】 延長6,407m(志登茂川)、1,463m(横川) 築堤 11,960m³ 掘削 692,560m³ 護岸 11,160m 樋門・樋管 3基 橋梁 20橋 用地補償費 1式</p>	S47	28,150	47.0%	<p>毛無川合流点から近鉄名古屋線までは概ね護岸及び堤防が完成しています。 県道草生窪田津線より上流は護岸が概ね完成しています。 現在、江戸橋の整備に着手しています。</p> <p>下流部は近鉄江戸橋駅を中心に市街地が形成されています。依然として、治水対策の必要性が高い状況です。</p> <p>近年で、平成16年9月に約350戸の家屋浸水被害が発生しました。</p>	<p>B/C = 5.07 地形メッシュの細分化に伴い、より精緻な計算を行った結果、想定氾濫区域の減少と浸水深の低下により、便益が減少しました。また、全評価期間の費用・便益について社会的割引率を用いて現在価値化した結果、資産の減少に伴う便益の減少と、投資済みの費用が多いことから総費用の増加が著しいため、B/Cが減少しました。</p> <p>発生土を築堤工事に有効利用し、建設副産物の発生抑制に努めます。また、護岸材料、工法の新技術の活用等により、コスト削減ができるように努めます。</p> <p>「遊水地・調整池案」「放水路案」とも新たな広大な用地の取得や、補償が困難です。また、「放水路案」は、鉄道、幹線道路を横断することから公共交通に影響が生じます。</p>	治水安全性の早期向上のため、継続して事業の推進を図ります。	
						}	16,541	43.0%				
						H45	11,609	54.0%				
					<p>【事業目的】 志登茂川沿川の浸水被害防止を目的とした築堤工、河床掘削、護岸工等の施工による河川改修を行い、流下能力を増大させ、治水安全度の向上を図ることが事業の目的です。</p>							

注:再評価理由

- 事業採択後5年間を経過した時点で未着工の事業
- 事業採択後一定期間を経過した時点で継続中の事業
- 再評価実施後一定期間が経過している事業
- 社会経済情勢の急激な変化等により再評価を実施する必要が生じた事業

(添付ファイル 第8号様式)

平成25年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用対便益分析結果・コスト削減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	
						採択年	総事業費	進捗率				事業進捗内容
							工事費	進捗率				
目標年	用地費	進捗率										
広域河川改修事業	11	二級河川安濃川	津市他		<p>【全体事業概要】 全体事業費 11,356百万円 計画延長 L=11,100m(安濃川) L=6,300m(岩田川) L=1,100m(三泗川) ・河道掘削 V=1,046,400m³ ・築堤 V=21,620m³ ・護岸 L=13,260m ・橋梁 6橋 ・用地補償費 1式</p>	H15	11,356	18.5%	<p>【実施事業内容】 ・築堤 L = 442m ・河道掘削 V = 5,100m³ ・護岸 L = 602m ・橋梁 2橋 ・用地補償 1式</p> <p>【以降事業内容】 ・築堤 L = 21,178m ・河道掘削 V = 1,041,300m³ ・護岸 L = 12,658m ・橋梁 4橋 ・用地補償 1式</p>	<p>(周辺環境の変化) ・安濃川、岩田川は津市の中心市街地を貫流しており、依然として治水事業の必要性は高い状況です。 ・中上流部に伊勢自動車道津インターチェンジや国道23号(中勢バイパス)があります。また、中勢バイパス東側にあります「メッセ・ウイング三重」の隣に津市屋内スポーツ施設が計画されています。 ・平成24年2月の「津市・住民意識調査」では、「災害に強いまちの推進」が最も重要度が高い評価になっています。 ・平成49年7月の集中豪雨では、津市内で4万人を超える被災者、12,500戸を超える家屋が浸水し、そのうち、安濃川・岩田川流域では、5,000戸を超える家屋が浸水しました。</p>	<p>B/C= 38.50 全評価期間の費用・便益について社会的割引率を用いて現在価値化した結果、便益、費用とも増となったが、資産増に伴う便益の増加が大きく、B/Cが増加しました。 発生土を有効利用し、建設副産物の発生抑制に努めます。また、護岸材料、工法の新技術等の活用により、コスト削減に努めます。 安濃川河川整備基本方針策定時に河道改修、ダム、遊水池について比較検討した結果、経済性等の観点から、遊水池と河道改修の組合せが、最も有利と判断しています。 このうち、河川整備計画では、河道改修を行うものであり、これまで進めてきた改修とも整合していることから、現行の河道改修が妥当と考えます。</p>	<p>岩田川の整備完了後、三泗川及び安濃川へと順次整備を進めていきます。</p>
						}	5,407	7.0%				
						H44	5,949	11.0%				

注:再評価理由

- 事業採択後5年間を経過した時点で未着工の事業
- 事業採択後一定期間を経過した時点で継続中の事業
- 再評価実施後一定期間が経過している事業
- 社会経済情勢の急激な変化等により再評価を実施する必要が生じた事業

(添付ファイル 第8号様式)

平成25年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用対便益分析結果・コスト削減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	
						採択年	総事業費	進捗率				事業進捗内容
							工事費	進捗率				
						目標年	用地費	進捗率				
広域河川改修事業	18	一級河川木津川	伊賀市		<p>【全体事業概要】 全体事業費 28,740百万円 計画延長 19,860m ・築堤工 33,465m ・掘削工 3,760,000m³ ・護岸工 54,600m ・橋梁 32橋 ・樋門樋管 2基 ・堰 15基 ・用地補償 1式</p>	S30	28,740	50.1%	<p>【事業実施内容】 ・築堤工 18,240m ・掘削工 1,631,900m³ ・護岸工 13,698m ・橋梁 20橋 ・樋門・樋管 1基 ・堰 9基 ・用地補償 1式</p>	<p>(周辺環境の変化) ・中下流部は、国道や伊賀鉄道の駅周辺等を中心に集落が形成されており、依然として治水事業の必要性は非常に高い状況です。 ・近年では、平成5年、平成21年、平成24年に浸水被害が発生しました。 関連事業 ・下流の直轄区間では上野遊水地事業が、平成26年度に完成見込です。 ・淀川水系河川整備基本方針で川上ダムが計画されております。 ・本事業と上野遊水池事業、川上ダム建設事業と合わせて整備することで、戦後最大の洪水を安全に流下させ、地域全体の治水に寄与することが期待されています。</p>	<p>B/C=2.25 資産の減少による便益の減少しました。また、全評価期間の費用・便益について社会的割引率を用いて現在価値化した結果、資産の減少に伴う便益の減少と、投資済みの費用が多いことから総費用の増加が著しいため、B/Cが減少しました。 河床掘削等による発生土を近隣の他事業に流用する等検討、また、護岸の材料、工法の新技術の活用等により、コスト削減ができるよう検討します。堰の統廃合についても、より効率的な河川改修となるよう検討します。 代替案としてのダム案は、事業実施区間に、新たなダム建設適地がないこと、遊水地・調節池案は、広大な敷地が必要であり、設置が困難です。</p>	<p>早期完成に向け事業を進めていく。</p>
						}	20,522	45.7%	<p>【以降事業内容】 ・築堤工 15,225m ・掘削工 2,128,100m³ ・護岸工 40,902m ・橋梁 12橋 ・樋門・樋管 1基 ・堰 6基 ・用地補償 1式</p>			
						H40	8,218	61.0%	<p>【事業目的】 木津川沿川の浸水被害防止を目的に、河川の拡幅と掘削、堤防嵩上げ、堰や橋梁等の改修により流下能力を確保し、治水安全度の向上を図ります。</p>			

注:再評価理由

- 事業採択後5年間を経過した時点で未着工の事業
- 事業採択後一定期間を経過した時点で継続中の事業
- 再評価実施後一定期間が経過している事業
- 社会経済情勢の急激な変化等により再評価を実施する必要が生じた事業